

〈第4回ツアー回帰〉しのめハウス施設長菅野さんへのご質問

——— お答えのヒアリングまとめ ———

Q1 菅野さんは、支援者として「一番のやりがい」をどこに感じておられますか？
同時にPSWとして一番大切にされていることがあれば教えてください。

対象者が生きやすくなったと感じたときだと思います。周りに迷惑を掛けなければ、何をして構わないと言うことをモットーにして関わっています。

SWは、生活問題に関わるため、いつの間にかオールマイティーだと勘違いしていないか、あるときは自分の考えを押しつけていないか、また何でもしてあげることでその人が本来出来ることまで奪っていないか、等を常に考えています。

学生時代に岡村先生から直接教わったSWの立場「社会関係の障害の主体的側面からの支援」に立ち戻って考えるようにしています。何故この状態になったのかを問題にするのではなく、今の状況でどんな支援が必要かを考えたいと思っています。

Q2 募金や寄付などは何故多く集まったのでしょうか。何かコツなどがあるのでしょうか。

今まで多くの対価を求めず出来る範囲で本の販売や寄付をしてきました。またメンバーさんの生活圏で、買い物をしたり、美容院を利用したり、その中に融け込むよう努力してきた結果ではないでしょうか。引っ越しの際の不要品の処分の依頼があれば、こちらには不要なものでも引き取ってきたと言うことも遠因でしょうか。

Q3 他地域の方が支援を求めて沢山来るようになったのはどのような理由からだと思っ
ていらっしゃいますか。出来れば「きっかけ」となった出来事など。

シノメハウスの立ち上げは、私が勤めていた病院のサロンのメンバー（患者）さん達の要請に基づくものでした。その人達の中には、大阪市や松原市在住の方もいました。補助金は堺市から出ていましたが、この人達を排除することなく、経済的に困らなければ誰でも引き受けてきました。地域の壁と言ったものは考えていません。

Q4 講話中に「当直2名が実現すれば、事業的にもっと面白いことが出来る」とおっしゃっていたのですが、もっと詳しく伺えますか。

生活支援は、「火災警報器が鳴り出してとまらない」「水漏れがしている」など、真夜中에서도起きます。それ以外に精神的な問題で「不安で眠れない」等のアピールに対して、電話相談などをしてくれる人があれば、かなりの人が地域で生活していくことが出来ると思えま

す。高額な補助金や大きな施設が必要ではなく、小さな施設に当直者が2名常駐するという体制なら、実務的にも補助金的にも効率が良いのではないかと考えています。私は今施設の3階に住み、夜間対応をしていますので、この様な必要性を感じています。

Q5 かつて病院でケースワークされていたときなどに、結局「どうすればいいか分からなかった」患者さんの例などがあれば教えてください。

① 退院可能だと思える人なのに、家族の都合などで退院できなかった事例。

入職2年目にDrから、症状が安定しているのに退院できない20ケースを預かって関わったことがあります。結局本人の症状悪化時に、どれだけ家族に迷惑を掛けたかと相関関係にあることが分かり、時間を掛けて丁寧に関係改善に努力しました。そんな努力もせずに、家族が主治医も無視して、ひどい病院に転院させられたケースもありました。

② 精神・知的などの重複障害を持ち、生活経験の少ない人など、支援に限界があったケースなどを参考にして積み重ねることによって、サロンやしののめハウスを立ち上げてきました。

Q6 今までに、施設内でメンバーさんが、他のメンバーさんやスタッフに対して暴力などを起こされたことはあるのでしょうか。あればどういう対応をされましたか。

薬は出来るだけ飲まない方が良いと信じているメンバーさんが、欠薬によって症状が悪化し、妄想が再燃し、他のメンバーさんへの攻撃がひどく恐れられていました。その内遂に椅子を振り上げて他のメンバーさんに大ケガをさせ、警察を呼ぶに至り、強制入院となりました。でもその方が退院するときに、どうしてもしののめハウスに戻りたい、しののめハウスに行けなければ自分の人生はないと、加入を申し出てきました。

そのため、メンバーミーティングで話し合い、症状の出ない時はいい人だと言うことで、必ず治療を受けることを条件に加入を認めました。今もしののめハウスで大きな顔をして過ごしています。

暴力や窃盗があったからと言うことでは原則排除していないので、他の施設から追い出された方がかなりおられます。そのため器物損壊や暴力は時々ありました。でもメンバーさん達は共感性が高いのか、優しい人が多いのか、受け入れてくれています。これは施設側に排除の構造がないからかもしれません。

Q7 今までに出会った出来事の中で、人生観が変わるようなことはありましたか。あればお伺いできますか。

唯単に目の前にいる「援助を求めてくる人」に対応しているだけで、人生観が変わるよう

な出来事はありません。人生観が変わったから今があるわけではなく、自分が最も大切だと感じていることに関して、ぶれずにやってきたことが今後の自分を作っていくことになると考えています。

Q8 椅子や食器などは「いただき物」が多いという素敵なお話でしたが、どういった経緯（つながり）でいただけるものなのでしょうか。

○お声を掛けていただくと、断りません。断ってしまうと二度とお声を掛けてもらえなくなります。要らない物の処分を誰かに声を掛けるのは勇気が要ることだと思います。

○要らない家具や食器は捨てられ、粗大ゴミになります。粗大ゴミを出さないよう社会貢献していると考えます。

○要らない物となっても、この世に生み出された物は、何らかの形で再利用することによって最後までその目的を全うすべきだと考えます。